

南河内第二中学校区

《長期ビジョン》

夢と希望をもち、たくましく未来を拓く児童生徒の育成

【目指す子ども像】

- 〈まなび〉主体的に考え、学び合いを通して互いに高め合える子ども
- 〈こころ〉思いやりの心をもち、自他を大切にできる子ども
- 〈からだ〉健康に関心をもち、体力向上に励む子ども
- 〈ちいき〉社会に貢献し、地域に主体的に参画しようとする子ども

【実践研究課題】

〈伝える力の育成〉

教育活動全体を通して、考えや気持ちを理解し、互いに認め合える子どもを育成します。
重点教科(国語、外国語)

各部会の取組

<授業研究チーム・国語部会>

【児童生徒の実態】

知的好奇心が高く、学習意欲が高い。学習・生活両面が安定している児童生徒が多いが個別指導が必要な児童生徒もあり、学習に限らず学級経営にも工夫が必要である。興味・関心のあることについては積極的に発言できるが、集団や他の意見に対しては関心が薄く、話し合いながら課題を解決したり、学びを深め合ったりする力がやや低い。

【部会のねらい】

主体的に考え、考えたことを他者に分かりやすく伝えたり、他者の考えを受容しながら聞いたりすることにより、更に自分の考えを広げ深められるような「豊かな対話力」を育成する。また、「豊かな対話力」の土台となる「聴き合う力」の育成を目指す。

視点	<A> 教育課程の 工夫改善	 教育活動の 連続性の確保	<C> 教職員間の 連続・協働	<D> 家庭・地域との 連携・協力
----	----------------------	------------------------	-----------------------	-------------------------

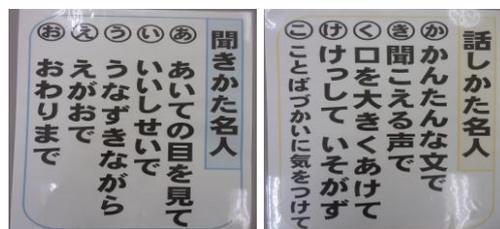
取組	<ul style="list-style-type: none"> ①相手意識をもち、分かりやすく話す力・受容しながら聞く力を育成するための実践及び情報交換 ②話し合いをつなぐ教師のコーディネート力向上のための指導の工夫 ③小中学校相互の授業参観及び授業研究会への参加
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・「話し方・聞き方名人」掲示物を活用し、すべての教科・あらゆる場面で児童に意識させたことにより、分かりやすく話すことや、受容しながら聞く態度が少しずつ身に付いてきた。 ・詳しく聞くための5W1Hを意識させる「ヒントカード」を活用することにより、友達への質問が多く出てくるようになり、他教科にも応用し、子供同士の話し合いが活発になった。 ・中学校では、「話し方・聞き方」に関する指導を継続することにより、プレゼンテーションやビブリオバトルなどの国語科の授業の中で、聞き手の受容的な態度が発表の緊張を和らげるなど、聞く態度の重要性に気付くことができた。 ・国語科における言語活動の目的意識・相手意識の重要性を確認し、単元を通して子供の学ぶ意欲が継続できるような単元計画を工夫することができた。 ・S&U研修会や要請訪問等において、各校で課題解決のために常時実践している内容について検証し、研修で得た成果や課題を更に小中学校で共有し、指導に生かすことができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒の「伝えたい」思いが強く、「話すこと」への意識に重きが強い傾向が見られた。「対話」という視点に立ち、相手意識をもたせ、「受容しながら聞く」態度の育成に力を入れていきたい。 ・聞き手の反応が上達し、聞き手を一層意識して話すような指導の工夫が必要であり、そのために日常的に継続していける取組を検討していく。



話をする人の方に体を向け、よい姿勢で聞く子供たちの様子。
(祇園小)



ビブリオバトルの様子
(第二中学校)



全校で取り組んだ
「話し方名人」「聞き方名人」

<授業研究チーム・外国語部会>

【児童生徒の実態】

知的好奇心が高く、学習意欲も高い。しかし、他教科と同様に学力の二極化が見られ、小さい頃から外国語に慣れ親しむ環境で育ってきた児童生徒がいる一方、外国語に苦手意識をもち、話すことに消極的な児童生徒も一定数いる。また、英語に関して豊富な経験を有する児童生徒でも、相手意識や目的意識をもったやりとりは、やや苦手な傾向がある。

【部会のねらい】

外国語科、外国語活動、英語活動において、主体的に考えや気持ちを伝え合う力を育成する。

視点	<A> 教育課程の 工夫改善	 教育活動の 連続性の確保	<C> 教職員間の 連続・協働	<D> 家庭・地域との 連携・協力
----	----------------------	------------------------	-----------------------	-------------------------

取組	<ul style="list-style-type: none"> ・単元計画において、必然性のあるやりとりの場の設定を工夫し、実践事例を持ち寄って、学び合う。 ・S&Uの授業を通しての学びを日常で生かす。 ・「しもつけ未来学習」を積極的に活用する。 ・英語を通じた小中の交流授業を実践する。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・小中交流授業を実施することができた。「中学生が小学校6年生に伝える」という必然性のある場を設定したことで、相手意識や目的意識をもち、自分の考えや気持ちを意欲的に伝えようとする姿が見られた。小学生も関心をもって聞き、感想を伝えたり、質問したりすることができた。また、教員側も、連携のよさを子供たちの姿で確認することができた。 ・実践事例を持ち寄ったり、公開授業を部会のメンバーが参観したりすることによって、それぞれの発達段階における児童生徒の実態や、各校の取組を共通理解することができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・小中交流授業のもち方(小学校英語の在り方についての共通理解、より効果的な交流の方法の検討等) ・相手意識、単元のゴールを明確にした単元構成(小小連携等) ・「主体的に」の捉え方

【小中交流授業の様子(R4.11.21)】

二中2年1組と緑小6年2クラス、祇園小6年2クラスがオンラインで実施



<心づくりチーム>

【児童生徒の実態】

知的好奇心が高く、学習意欲が高い。興味があることに主体的に取り組むが、集団に対しては関心がやや薄い傾向もみられる。集団との関わりが求められる場面で、協同的に活動に向かう意識、積極的に解決しようとする能力がやや低い。

【部会のねらい】

令和4年度から新たに設立の部門「心づくりチーム」は、令和3年度「学級づくりチーム」と「道徳教育チーム」の活動を継承し、発展させることをねらいとする。初年度は、チームとしての取組を整理し、児童生徒・職員へ「見える化」と「周知・実践」し、今後に生かす。

視点	<A> 教育課程の工夫改善	 教育活動の連続性の確保	<C> 教職員間の連続・協働	<D> 家庭・地域との連携・協力
----	------------------	--------------------	-------------------	---------------------

取組	<ul style="list-style-type: none"> 心づくりチーム版 教師用活動デザインの作成。 学級力向上アンケートの実施と分析(年間2回を目安に行う)。 道徳教育における、カリキュラムマネジメントシートの活用(関連する項目との実践例を見出す)。 心づくりチームに関連する活動の推進と、実践時の工夫や手立てを見出す(あいさつ運動・読書活動)。
成果	<ul style="list-style-type: none"> 教師用活動デザインが完成。次年度のスタートからスムーズに活動に参加できることにつながった。 道徳では、カリキュラムマネジメントシートの活用を通して、各校で授業実践を進めることができた。 学級力向上アンケート実施2年目。良いところを伸ばす方向で進めていくことができた。 WinBirdの掲示板を通しての情報及び実践事例資料の速やかな共有ができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 活動内容の精選、工夫を継続すること。1つ1つの活動に対して、目的や意味付けをより明確にしていく必要があること。 道徳では他校の取組を十分に共有することができなかった。次年度は、「郷土愛」の内容項目を中心に、小中で取組を共有していくこと。 学級力向上アンケートを行う目的や趣旨を児童・生徒に十分に理解させること。 本の読み聞かせ活動を取り入れるなど、より小中の交流を深めていくための活動を模索していくこと。

↑ 教師用活動デザインで年間の取組が見える化

<緑小>

挨拶運動の様子→

各校の読書活動を共有

<健康チーム>

【児童生徒の実態】

- ・全体的に体力向上に対する意欲が低く、運動への関心において男女差がある。また、種目によっても児童生徒の意欲の高さに差が見られる。
- ・立腰指導は中学校において定着してきたが、小学校においては不十分な部分がある。
- ・朝食を食べる児童の割合は高いが、内容に関して課題のある児童生徒が見られる。また、食べてこない理由として、生活リズムの乱れを挙げている児童生徒が多い。
- ・体が硬い児童生徒が多く、体育の授業では容易にけがをしてしまう状況が見られる。

【部会のねらい】

- ・体育での安全指導や身体の使い方、体力向上について、小中の発達段階に応じた指導を行う。
- ・朝食摂取の充実と身体作りの意識の向上を図る。

視点	<A> 教育課程の工夫改善	 教育活動の連続性の確保	<C> 教職員間の連続・協働	<D> 家庭・地域との連携・協力
----	------------------	--------------------	-------------------	---------------------

取組	<ul style="list-style-type: none"> ・けがの予防のために、3校統一して取り組むための「二中学区体操」を作成 ・立腰指導の継続、各校の学校保健給食委員会への参加 ・朝ごはん毎日食べよう週間の実施、朝食アンケートでの実態把握、朝食欠食児童生徒への個別指導 ・11月「体力向上月間」の実施、外遊びの奨励、「二中学区健康だより」の発行
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・3校それぞれで実施していた準備運動の良さを生かしながら、二中で実施していた体操をもとに、二中学区体操が完成した。 ・立腰ビデオを作成し、視聴したことで、立腰に楽しく取り組むことができたと同時に、正しい姿勢の確認や意識付けができた。 ・学校栄養職員による乗り入れ授業により、他校の様子や実態を把握することができた。 ・体力向上月間は、外に出て運動する良いきっかけとなった。 ・朝ごはんチャレンジカードは、児童生徒だけでなく保護者への啓発にもなった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度完成させた二中学区体操を、来年度3校で実践していく。 ・GoogleFormsの長所と短所を考慮した上で、朝食アンケートの実施方法について検討する。 ・1年を通して取り組むことができるような簡単な手立てが必要。 ・朝ごはんチャレンジカードの内容を精選する。



<つながりアクションチーム>

【児童生徒の実態】

知的好奇心が高く、学習態度は良好で、課題に対し熱心に取り組むことができる。また、礼儀正しく落ち着いた態度で生活をしている。急速に発展した新興住宅地であり、地域住民や保護者は他県や他地域出身の割合が高く、育成会や地域の伝統的な行事が少ないため、子供たちと地域とのつながりが薄い。

【部会のねらい】

地域やふるさとの良さを知り、地域の一員として年中行事やボランティア活動に主体的に参加し、地域とのつながりを感じ、愛着を育てる。

視点	<A> 教育課程の 工夫改善	 教育活動の 連続性の確保	<C> 教職員間の 連続・協働	<D> 家庭・地域との 連携・協力
----	----------------------	------------------------	-----------------------	-------------------------

取組	子ども未来プロジェクト	小中合同クリーン活動	エコライフ祭りへの参加	小中学生と地域住民とのつながりがもてる企画
成果	<ul style="list-style-type: none"> 夏休み初日、二中図書室にて三校の小中学生、中学生が集まり、いじめや委員会について意見交換をしたことで、いじめをなくすことへの意識が高まった。 6年生が中学生の話し合いをリードする姿を見て、良いお手本になった。 	<ul style="list-style-type: none"> WinBirdの掲示板を活用したことで、やりとりが可視化でき、活動にまとまりがあった。 教員への意識付けがあり、小中の教員同士の関わりができた。 中学生の振り返りに、小学生とよく交流できて良かったとあった。 大量の落ち葉が掃除され、地域の方に感謝された。 	<ul style="list-style-type: none"> 実施なし 	<ul style="list-style-type: none"> 実施なし
課題	<ul style="list-style-type: none"> 9月に行った小中の委員会をつなぐオンライン会議は、各委員会の主務者の先生方とつながりアクション部会との共通理解が図れず、ねらいや目的が明確でなかった。 年間計画への位置付けや教員同士の事前打ち合わせが重要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 大量の落ち葉を掃除するための熊手やほうき等が少なかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 来年度も実施されるか分からないため、つながりアクション部会で取り扱うことは要検討である。 	<ul style="list-style-type: none"> 小中の地域連携教員と地域コーディネーターとの連携が必要である。 来年度のつながりアクション部会では、子ども未来プロジェクトと小中合同クリーン活動の2本柱として、学校と地域との連携を強化していく方向で検討していく。



子ども未来プロジェクト会議 (R4.7)



小中合同クリーン活動 (R4.11)

成果と課題

(1) 成果

- 「伝える力」を育成するためには、話し手だけの努力ではなく、聞き手の努力も必要となるため、国語科を中心に「話しかた名人」「聞きかた名人」のように約束事を分かりやすく伝えてきた。小学校だけでなく中学校でも取り組むことにより、小中の9年間を通して一貫した指導ができるようになった。
- どの部会も昨年度までの活動をもとに、少しずつ工夫・改善を加えながら取組をよりよいものに行っていく活動の土台ができてきた。
- WinBirdの掲示板を活用したり、部会同士の取組を報告し合うことで、二中学区の3校の教職員の情報交換や連絡をスムーズに行うことができるようになり、連携しやすくなった。
- 各部会の活動により、子供同士、教職員同士、地域と学校とのつながりが目に見えるようになってきた。

(2) 課題

- 「主体的」の捉え方は、表現が曖昧であり、教員間・学校間の共通理解をしていく必要がある。主体的な姿を具体的に子供たちに伝え、力を発揮するコミュニケーションの場を提供していきたい。
- 学校運営協議会の協力により、小中合同クリーン活動を中心に地域の方とのつながりもできている。コンパクトな学区の良さを生かして、さらにつながりを拡げていきたい。